トマトの育て方

今回みんなが育てるトマトは、ジュース用に開発された加工用のトマトで「りりこ（凛々子）」という品種です。

苗を植えましょう！

1 準備

トマトは太陽の光が大好きで、雨が苦手な植物です。苗がじょうぶに育つように、日あたりと風とおしのよいところで育てましょう。

また、大きなトマトをたくさん実らせるためには、たくさんの土が必要です。鉢やプランターで育てる場合は、たくさんの土が入る大きなものを用意します。右の写真のように、牛乳パックを使って土の量をふやしたり、土が入っている袋をそのまま使うのもよいでしょう。

2 植え方

苗は生きているので、やさしくあつかいましょう。

根の部分が全部入るふかさにあなをほります。苗を入れたらまわりから土を入れ、かるくおさえます。

さいごにたっぷりと水をやり、根を土になじませます。植えてから1週間は、土がかわかないようにちゅういしましょう。

3 水やり

水の量に気をつけよう

水やりは、なるべく朝早い時間に、土のかわきぐあいや天気を見ながらおこないます。

土の表面がかわいていたら、水が葉やくきにかからないよう根元にあたえます。鉢の場合、1回にあたえる水の量は、鉢の底から水がにじみ出るくらいがちょうどよく、ザーザーと流れ出るようでは、土の中の栄養分も流れ出てしまいます。

反対に水が足りないと、花がさいても実がつかなかったり、実が大きく育たなかったりします。休日など水やりができない場合は、鉢の下に水受けのトレーをおいて水をはっておくと、土が乾燥しにくくなります。

3～4週間くらいすると
花がさきはじめます。

4 芽かき

実にじゅうぶんな栄養分がとどいて大きくなるように枝を整理することを「芽かき」といいます。さいしょの花がさいたら、晴れた日に1度だけ芽かきをしましょう。

下の図のように、はじめにさいた花の下にでている「わき芽（葉のつけねから出てくる芽）」のうち、上から1～3本を残して、そのほかのわき芽を手でつみとります。つみとったきず口からばい菌がはいらないように、手をきれいにあらってから作業をしましょう。

花がさいたあと、受粉すると
緑色の小さな実ができます。

5 追肥

トマトは実を大きくするためにたくさんの栄養分が必要です。そこで、実がついたら栄養分（肥料）をあたえます。これを追肥といい、たくさんの実を収穫するために必要な作業です。

鉢やプランターで育てる場合は、土の中にたくさんの栄養分をたもっておくことができないため、1週間に1回ずつ液体の肥料をあたえます。

広い畑で育てる場合は、土の中に栄養分をためておくことができるので、2～3週間に1度の割合で固形の肥料をあたえます。

肥料は、多すぎても少なすぎても苗が弱ってしまいます。おうちの人や先生に相談しながら、肥料の説明書に書いてあるとおりの量をまもってあたえましょう。

いよいよ収穫！

6 収穫

トマトはまっ赤になればなるほど、栄養価が高くなります。実が大きく、じゅうぶんに熟してまっ赤になったら収穫しましょう。

ジュース用トマト「りりこ」は、ヘタと実がはなれやすい「ジョイントレス品種」です。ジュースにヘタは必要ないからです。また、収穫するときにハサミをつかわなくても手でかんたんに収穫できるので、農家の人の収穫作業が楽になります。

りりこの色のヒミツ

加工用トマト「りりこ」は完熟すると芯までまっ赤になるよ。これはトマトの赤い色素「リコピン」が、スーパーで売られている生食用のトマトより２～３倍も多く含まれているからなんだ。収穫したら、くらべてみよう！

加工用トマト　　生食用トマト

りりこの皮のヒミツ

太陽の光をたっぷりあびて、おいしさも栄養も満点になるまで、畑でじっくり育てられた「りりこ」。まっ赤に熟すと、すぐに収穫され、工場へ運ばれるんだ。でも運ぶときにキズがついたら、せっかくのトマトがだいなし！だから「りりこ」は皮がかたくて、われにくい品種なんだ。

ジュース工場のきかいで洗われる「りりこ」

いろいろなトマト

トマトは、世界中に 10,000 種類以上あるんです。

生食用トマト

サラダなど生のまま食べてもおいしいように開発された品種

ミニトマト

イエローペアー

ラウンドレッド

ピンク系トマト

加工用トマト

ジュースやケチャップ、缶詰などを作るための品種

ふりこま

ハイピール

チコー

サンマルツァーノ

愛知トマト

凛々子

野生のトマト

自然に生えている品種。実は小さくて食べられないものが多い。

ソラナム
ハブロカイテス

ソラナム
ペルビアナム

ソラナム
ピンピネリフォリウム